

菊井 忠雄先生 の思い出

～正義感と情熱が溢れ、ブレない先生～

事務局 前田 直人

先生は三橋さんへの返信のように北野高校定時制が初めての赴任先でした。昭和 35 年 1960 年 4 月から 3 年間の短い期間でした。時は 60 年安保問題で世間も大学、高校も騒然とした状況でした。先生は正義感が強く生一本の情熱的な性格でした。授業も校外活動も目一杯走られたようです。

授業は三橋さんが書かれように向学心の強い生徒には胸に強く響くものがあつたようです。別には、さっぱり分からなかったという声も届いています。

青年教師でしたから矛盾を多く持った定時制の生徒には暖かい態度で接しておられたようです。夕食がない生徒を自宅や後のアパートへ誘われたようです。また、生徒の中で政治的、文化的資質の強い生徒が先生のアパートに集まり、喧々諤々深夜まで討論を重ねたと聞いています。先生のボーナスはほぼその様な時の飲食代に消えていたようです。

先生は、三橋さんの文章にあるようにシェイクスピアには深い関心があつたようです。それが当時、大阪府定時制高校自治会連合（大定連）の主催する文化祭参加問題が 24 期生中心の生徒自治会と学校で大きな問題になりました。安保闘争に関わつた政治色ある大定連主催行事への参加は許可できない、とする学校に対し、演劇で文化祭に参加することがなぜ認められないのか納得できない、とする生徒側との対立でした。24 期生の担任だつた先生は自由に参加したいと言う生徒のバックボーン的存在のお一人に成つていたようです。

この問題の決着後、全日制普通科の高校へ転校されました。転校されてからも、全日制の生徒には定時制生徒のことを、定時制生徒には全日制生徒のことを紹介され、両生徒間の交流が生まれました。

定年後も一貫して英語の勉強を、また社会的・政治的問題での積極的関わりをされています。80 歳を越えた現在でも中之島の朝日カルチャースクール中之島教室で「英語」の諸講座を受講され、週間新聞に時事問題での意見投稿を続けられるなど、粘り強く筋を通される先生です。

私達が 4 年間色々と学び、悩み、挫折、成長しながらも多く人生で北野高校定時制を誇りに思い友情を育んでいます。先生も 3 年間の北野高校定時制在職中に私達と同じ様な気持ちで過ごされたのだと思います。

先生は、北辰会総会・懇親会や 24 期会にはほぼ参加されています。

私達と同様に北野高校定時制と北辰会を愛する先生です。



菊井忠雄 先生